

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12510

研究課題名(和文) グローバル皮革産業におけるネットワークの研究ーサンタクロチェを基点として

研究課題名(英文) A research on global leather industry designating Santa Croce as a starting point

研究代表者

西村 祐子 (Nishimura, Yuko)

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：80276451

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：皮革産業のネットワークの中で生まれる「ブランディング」のプロセスを検証、21世紀の産業「倫理」における大規模な変貌を論じた。被差別の歴史から最先端ファッションまでを概観しつつ「ブランド」に求められる「信頼」、その信頼と関連する「倫理性」について比較文化論的に論じ、高級皮革製品ブランドの「ブランディング」戦略について特に1980年代以降の大規模なグローバル化に着目して検討した。成果は「皮革とブランドー変化するファッション倫理」(2023、岩波書店)として2023年5月に出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバルな皮革産業のコンテクストに部落産業としての「皮革産業」を置き、比較対照し、停滞する日本の皮革産業への警鐘とした。

21世紀における産業倫理の大幅な変更をもたらした「ブランド化」の変貌を分析した。あらゆるものをブランディングしてゆく現代の消費文化の本質を21世紀の「倫理」のコンテクストを高級皮革の世界において考察したものと、将来を担う若者世代にも手に取りやすい新書版として出版した。日本における皮革産業の行く末を「サステナビリティ」との相関関係において論じ、グローバル化よりもグローバル化に向かうことがサステナビリティを中心とする21世紀の産業倫理に合致すると論じた。

研究成果の概要(英文)： The research examined the process of "branding" created in the network of the global leather industry. The research also analyzed the essence of branding as "trust" required of the "ethics" associated with quality and sustainability. The study examined the global pop culture created by the discriminated minority groups and "social protests" involved in leather production.

The research also examined the "branding" of luxury leather products in the modern era, focusing on the large-scale globalization of mass production process, particularly after the 1980s. This was made possible only through global networking of leather making and branding. Its merits and demerits are well discussed in the book titled "Leather and Brands-The transforming Fashion Ethics"(2023).

研究分野：社会人類学

キーワード：ブランド 皮革 ポップカルチャー 皮革産業 グローバル化 倫理 ファッション 被差別マイノリティ

1. 研究開始当初の背景

日本の被差別部落の産業として知られる皮革産業は危機に瀕しており、いくつかの理由が考えられた。本研究でとりあつかうのは以下のようなものであった。1.海外のグローバル化した皮革産業からの立ち遅れ、とくに産業技術革新への取り組みの遅れ、2.海外の皮革産業界との交流の欠如によるマーケットビリティのチャンスの喪失などであった。

2. 研究の目的

申請者が気づいた上記のような問題を克服し、日本独自の皮革産業の伝統を活性化させるためには類似の規模で皮革産業が活発化しているイタリアのサンタクローチェを参考にし、その内外的ネットワーク化がどのようになされているかを研究することが必要であった。

3. 研究の方法

文献研究、面談調査(国内、イタリア、イギリス、モロッコなどの業者との交流)、Zoomによる専門家との研究セミナー開催、研究調査地(日本)への海外研究者との共同面談調査。

4. 研究成果

2019-2020 においては、第二次世界大戦後に急速に発達したイタリアの皮革産業やアパレル産業を中心とするファッション産業をフィレンツェからサンタクローチェに至る「皮革製品ベルト」を中心に研究を行った。ビデオ制作あり。2019 年末よりのコロナ禍で海外渡航が不可能となったため、研究を国内からの Zoom による研究会議とセミナーにきりかえた。そのなかで、2020-2021 度に明らかになってきたのが世界規模で皮革産業の仕上げ剤やパイナップルの茎などを利用したヴィーガンレザー(新皮革)のマーケットへの介入である。皮革産業とサステナビリティの関係などを探る為、スペインのバルセロナ近郊にあるスタール社(本社オランダ)の研究所を訪問(2019年)したおりのビデオをまとめ、セミナー用のビデオを制作した。それらを国内の自治体を中心とするセミナーやたつの市とのセミナーに活用した。ズームを活用したセミナーや自治体(品川区)における対面式のセミナーでレクチャーを行った。

2021 年から 2022 年にかけては、「皮革とブランドー変化するファッション倫理」の執筆を中心に研究を行った。また、A study of the post-medieval animal carcasses processing community and their danna-ba privileges in Japan a cross-cultural comparative approach 駒澤大学外国語論集 (33) 1-14 2022 年 9 月 では中世以降の日本における皮革加工社会の社会構造を、特定のアンタッチャブル・コミュニティにつながる平民の集落である「檀那場」に着目して考察した日本語による諸論文をもとに、近隣の特定のアンタッチャブル・コミュニティに与えられた権利と義務の束のひとつとしての廃棄された動物の死骸を無償で引き取り、革にする権利が世襲制である点に注目した。そこで、ダンナバ内外の文化特有の社会的ヒエラルキーを、インドのジャジュマン関係と比較しながら論じた。ギルドと広範なビジネス・ネットワークに基づいた枝肉加工を行うイギリスとは異なり、日本の枝肉加工事業は当局によって高度に管理されたものであった点を指摘した。このテーマおよび著書「皮革とブランド」(2023)中で展開された日本独自の古代的皮なめし手法を分析した A socio-cultural study of Japanese leather 駒澤大学総合教育研究部紀要 34 号(2019)のテーマは現在進行中の Leather Conservation and Other materials(Routledge, 2025 刊行予定)に引き継がれることとなった。

2021 年の英文論考ではミレニアル世代と Gen-Z 世代の消費者倫理とライフスタイルの変容：高級皮革ブランド市場に関する一考察として、THE UNCERTAIN FUTURE OF THE JAPANESE LEATHER INDUSTRY. CAN 'BRANDING' SAVE IT? 駒澤大学外国語論集 (31) (2021) を論じた。

2023 年に刊行された「皮革とブランドー変化するファッション倫理」(2023、5 月、岩波書店)は「皮革」をめぐり、被差別の歴史から最先端ファッションまでを概観しつつ「ブランド」に求められる「信頼」、その信頼と関連する「倫理性」について比較文化論的に論じた。第一章においては皮革づくりに携わった被差別マイノリティ集団を欧州・アジア・日本を縦断して論じつつ英国におけるギルドにおける皮革生産に携わった集団との相違を論じている。第二章は現代における高級皮革製品の「ブランド化」についての考察をすすめる比較文化評論となっており、現代

のブランド化の背景としての大量生産にかかわる 19 世紀の機械化とそれ以降 1980 年代の産業の大規模なグローバル化、その功罪について論考をおこなっている。第三章ではファッションを支える大衆文化（ポップカルチャー）のなかに反映されてきた「社会へのプロテスト」の系譜をたどり、象徴的に用いられてきた「社会プロテストの表象としての皮革」について論じる。「高級ブランド」の大量生産が可能となった 1980 年代以降の大規模なグローバル化した生産体制に対する「批判」のディスコースとしての新たな産業倫理の勃興を論じているのが第四章、第五章、および終章である。そのなかでは日本における皮革産業の行く末を「サステナビリティ」との相関関係において論じている。

今後の研究の方向性と展望：

1) Leather Conservation and Other Materials (2026 年 Routledge より刊行予定) への寄稿、

2) 新たな研究としてのインドにおける皮革産業が引き起こすグローバルネットワークへの変更について研究を進める。

中国に次いで世界第二位の皮革製品生産国であるインドであり、牛革製品は特に有名であるものの、2015 年以降現政権下で急速に力を伸ばしてきたヒンドゥーナショナリズム急進派により皮革産業の担い手であるムスリム（イスラム教徒）が迫害され、中規模・大規模の工場経営者および高度な技術者の多くを占めるイスラム教徒が中近東および東南アジアのイスラム圏（シンガポール、インドネシア）に移民する傾向が顕著となっている。筆者の皮革産業研究は現代の産業倫理と深く絡み合った文化的要件にもとづく産業資本、知的資本の移動に深くかかわりあっている為、今後の研究はインドと中近東および東南アジアを結ぶ人的資本の移動を中心としてゆくこととなる。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Yuko Nishimura	4. 巻 33
2. 論文標題 A study of the post-medieval animal carcasses processing community and their danna-ba privileges in Japan a cross-cultural comparative approach1	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 駒澤大学外国語論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西村 祐子	4. 巻 13
2. 論文標題 A socio-cultural study of Japanese leather	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 駒澤大学総合教育研究部紀要	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yuko Nishimura	4. 巻 31
2. 論文標題 THE UNCERTAIN FUTURE OF THE JAPANESE LEATHER INDUSTRY. CAN 'BRANDING' SAVE IT?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学外国語論集	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西村祐子	4. 巻 33
2. 論文標題 A study of the post-medieval animal carcasses processing community and their danna-ba privileges in Japan a cross-cultural comparative approach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駒澤大学外国語論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Nishimura	4. 巻 16
2. 論文標題 The Transformation of Consumer Ethics and Lifestyles of Millennials and Gen-Z: A Study of The Luxury Leather Brand Market	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学総合教育研究部紀要	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Nishimura	4. 巻 31
2. 論文標題 The Uncertain Future of Japanese Leather Industry	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学外国語論集	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 西村祐子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 皮革とブランドー変化するファッション倫理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------